

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-262949

(43)公開日 平成6年(1994)9月20日

(51)Int.Cl.⁵

B 6 0 J 7/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 7634-3D

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-51200

(22)出願日 平成5年(1993)3月12日

(71)出願人 000001052

株式会社クボタ

大阪府大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号

(72)発明者 池田 堅二

大阪府堺市石津北町64番地 株式会社クボ
タ堺製造所内

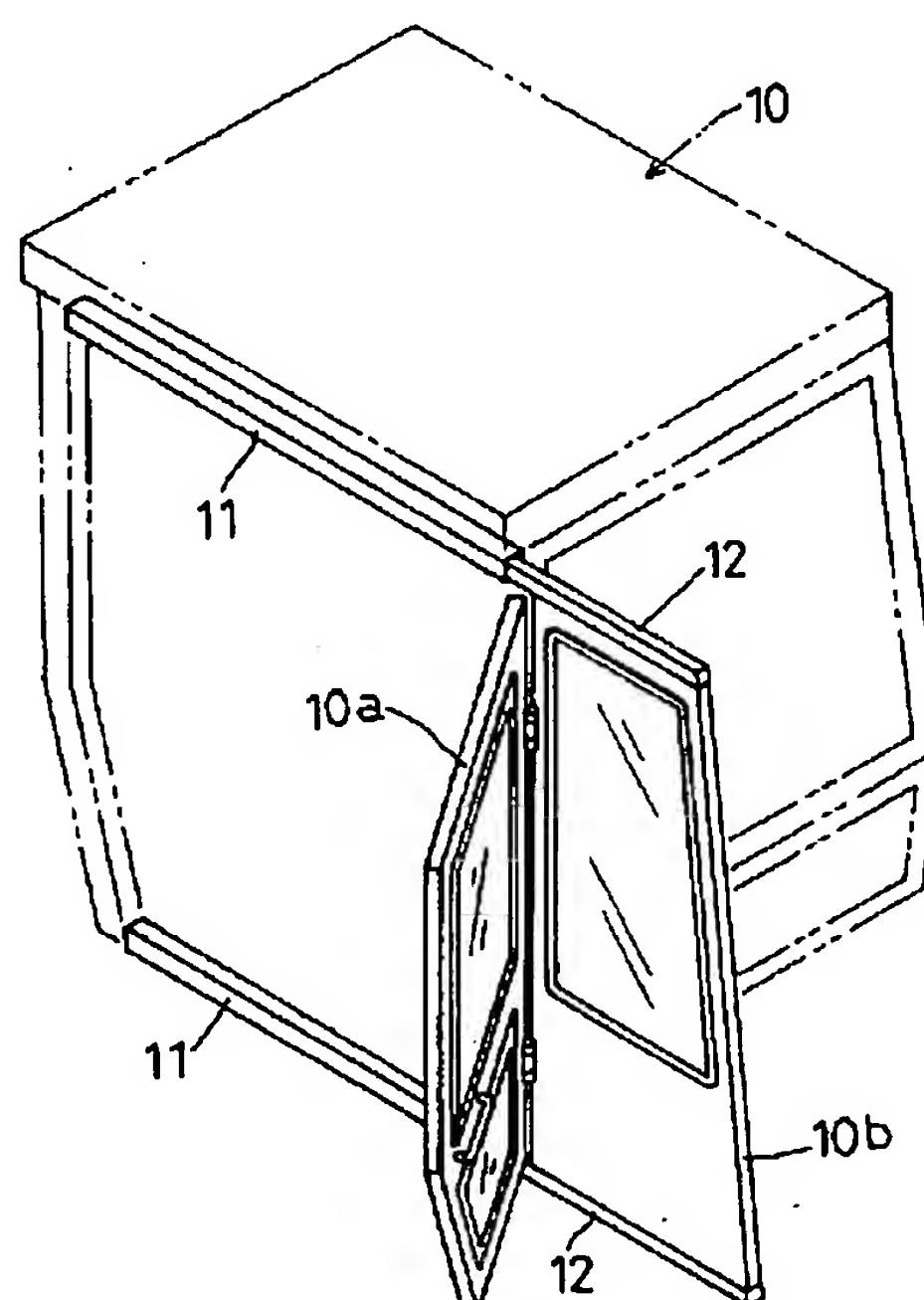
(74)代理人 弁理士 北村 修

(54)【発明の名称】 作業車のキャビン構造

(57)【要約】

【目的】 運転部と原動部を覆うキャビンに、運転部に対する乗降口を開閉する揺動式ドア、及び、原動部の横外側方でドアの後方に位置する壁部分を備えた作業車において、原動部の保守作業を壁部分に阻害されることなく容易に実行できるようにする。

【構成】 運転部8と原動部9を覆うキャビン10に、運転部8に対する乗降口を開閉する揺動式ドア10a、及び、原動部9の横外側方でドア10aの後方に位置する壁部分10bを備え、前記壁部分10bをドア10aと共に開放可能な状態で開閉操作自在に取付ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 運転部(8)と原動部(9)を覆うキャビン(10)に、前記運転部(8)に対する乗降口を開閉する揺動式ドア(10a)、及び、前記原動部(9)の横外側方で前記ドア(10a)の後方に位置する壁部分(10b)を備えた作業車において、前記壁部分(10b)を前記ドア(10a)と共に開放可能な状態で開閉操作自在に取付けてあることを特徴とする作業車のキャビン構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ホイールローダや乗用芝刈り機、等の作業車におけるキャビンの構造に関する。

【0002】

【従来の技術】ホイールローダにおいては運転座席を原動部の上に配備している関係で、キャビンは運転部と原動部を覆うように設けられる。そして、例えば実開平2-96275号公報に示されるように、このキャビンに、運転部に対する乗降口を開閉する揺動式ドア、及び、原動部の横外側方でドアの後方に位置する壁部分を備えた構造としている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、原動部の保守に際して乗降口から固定した壁部分の向こう側に位置する原動部を処置しなければならず、保守作業が困難であり、原動部保守の作業性の面から改良の余地があった。本発明の目的は、原動部の保守作業を壁部分に阻害されること無く容易に実行できるようにする点にある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の特徴構成は、運転部と原動部を覆うキャビンに、運転部に対する乗降口を開閉する揺動式ドア、及び、原動部の横外側方でドアの後方に位置する壁部分を備えた作業車において、壁部分をドアと共に開放可能な状態で開閉操作自在に取付けたことにある。

【0005】

【作用】つまり、原動部の保守に際して、原動部の横外側方に位置する壁部分をドアと共に開放できるから、壁部分を開いた開口部と乗降口から成る広い開口を利用して、保守作業を容易に実行できる。

【0006】

【発明の効果】その結果、原動部の保守作業をキャビンの壁部分に阻害されること無く容易に実行できる、整備性において一段と優れた作業車を提供できるようになった。

【0007】

【実施例】図1に示すように、前部車体1と後部車体2を油圧シリンダ3により腰折れ操向操作自在に連結し、油圧シリンダ4により上下揺動操作自在なアーム5にバケット6を油圧シリンダ7により回動操作自在に取付け

て成るショベル装置を前部車体1に設け、後部車体2に運転部8と原動部9をキャビン10で覆った状態で設けるとともにバックホウ装置13を着脱自在に設け、作業車の一例であるバックホウ付ホイールローダを構成してある。運転部8に対する乗降口を開閉する揺動式ドア10a、及び、原動部9の横外側方でドア10aの後方に位置する壁部分10bをキャビン10に備えさせ、図2に示すように、上下の固定レール11夫々にスライドレール12を前後摺動自在に取付け、壁部分10bをスライドレール12に取付け、ドア10aを壁部分10bに一体摺動自在にかつ揺動自在に取付け、壁部分10bをドア10aと共に開放可能な状態で開閉操作自在に構成し、壁部分10bをドア10aと共に開放して広い開口を形成し、原動部9の保守作業を容易に実行できるようにしてある。

【0008】バックホウ装置13を形成するに、操作部や左右一対のアウトリガー13aなどを有する取付け枠に、スイングブラケットを油圧アクチュエータにより左右回動操作自在に取付け、ブームを油圧シリンダにより上下揺動操作自在にスイングブラケットに取付け、アーム13bを油圧シリンダにより揺動操作自在にブームに取付け、バケット13cを油圧シリンダにより回動操作自在にアーム13bに取付け、フック14付のチェーン15をアウトリガー13aの上部に取付けて、キャビン10側に寄せた格納姿勢のバックホウ装置13を、アーム13bにフック14を掛けたチェーン15で振れ止めするように構成してある。乗降口に対するステップ16において、図3に示すように、左右の板状吊り下げ部材16aを支軸16b周りで揺動自在に後部車体2に取付け、両吊り下げ部材16aの下端に支軸16c周りで相対揺動自在に踏み板16dを取付け、ステップ16が走行時に他物に衝突しても支軸16b、16c周りでの後退揺動により破損しないように構成してある。

【0009】〔別実施例〕壁部分10bをドア10aと共に開放可能な状態で開閉操作自在に取付けるに、図4に示すように支軸17周りで揺動開閉自在な壁部分10bにドア10aを支軸18周りで揺動自在に取付けたり、図5に示すようにドア10aを支軸19周りでかつ壁部分10bを支軸20周りで観音開き式に開閉自在に取付けるなど、具体構成は適当に変更できる。ホイールローダの形式はバックホウ装置14を備えないもの、後車輪を向き変更して操向するもの等、適当に選定できる。又、乗用芝刈り機への適用も可能である。

【0010】尚、特許請求の範囲の項に図面との対照を便利にするために符号を記すが、該記入により本発明は添付図面の構成に限定されるものではない。

【図面の簡単な説明】

【図1】バックホウ付ホイールローダの側面図

【図2】キャビンの概略斜視図

【図3】ステップの正面図

3

4

【図4】別実施例の要部概略平面図

【図5】更に別の実施例の要部概略平面図

【符号の説明】

8 運輸部

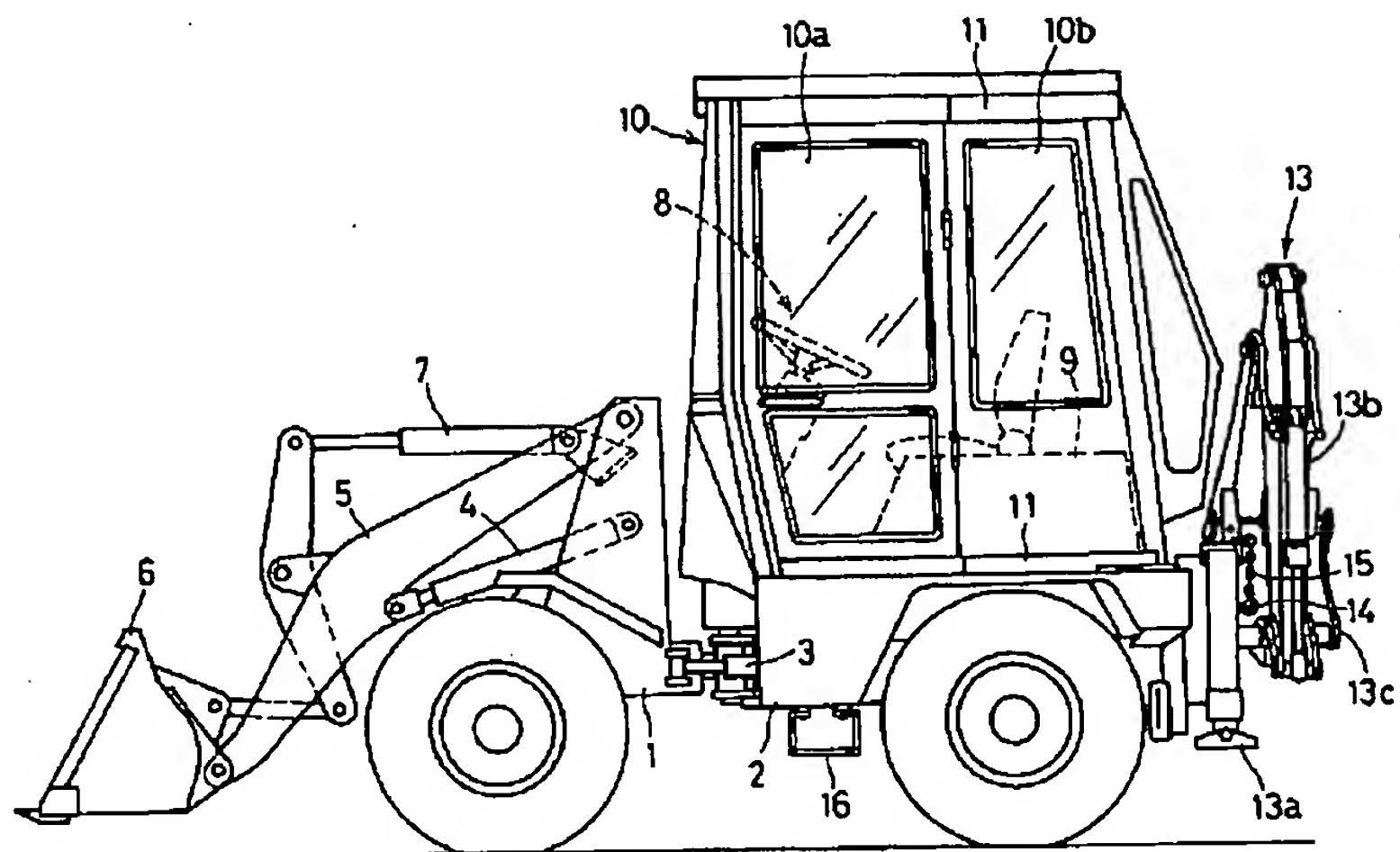
9 原動部

10 キャビン

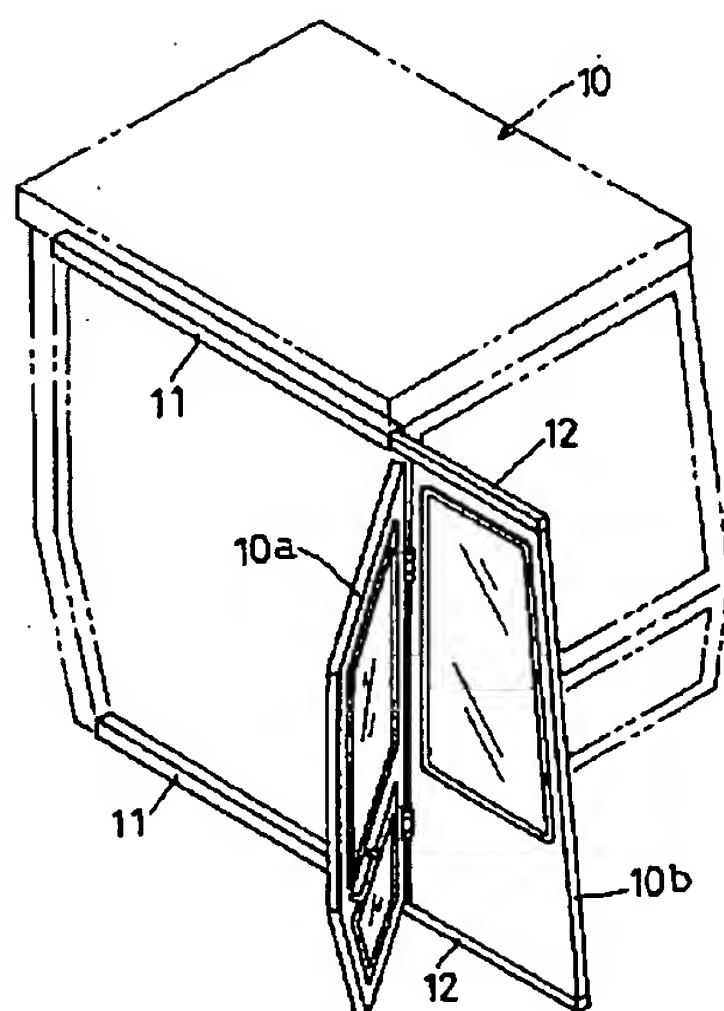
10a 卜𠂔

10b 壁部分

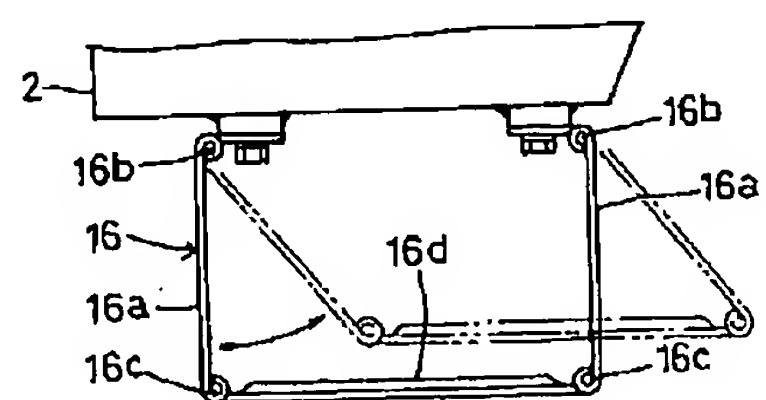
【図 1】



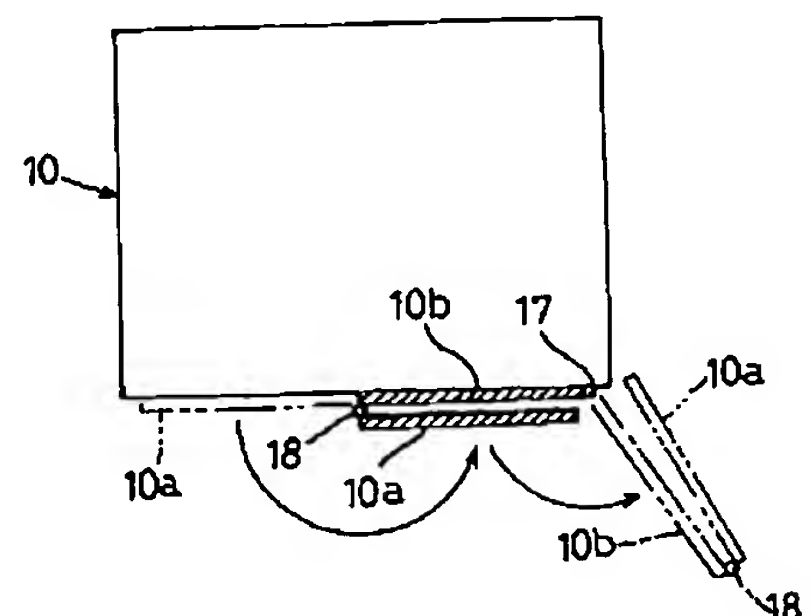
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

